

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370800211		
法人名	特定非営利活動法人明成会		
事業所名	グループホームおらほの家		
所在地	〒028-0526遠野市下組町11-49 (電話) 0198-62-2617		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年2月22日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	26,300~26,600 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 84 歳	最低 67 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立遠野病院、六角牛病院、時田整形外科医院、飯多香歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、遠野市の中心部の市街地エリアにあり、買い物や地域交流など便がよく、付近の道路は車通りも少なく静かな環境にある。建物に面した庭は広く、窓からの景色の眺めのよさは素晴らしい。また、地域との密接な地域連帯の中にあつて、積極的に地域との関わりをもち様々な協力関係が築けている。また、専門的な視点からは見過ごされやすい「普通の暮らし」を支援する姿勢も事業所の大きな特徴となっている。行政が実施する回想法の事業にも参加しており、遠野市の「語り」の文化と相まって、地域の高齢者理解および支援に寄与するものとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前は家族との交流が改善課題として取り上げられているが、現在は様々な行事にあわせて家族に集まってもらう機会を作っている。また、家族への報告のなかで、行事や日常のふとした場面での利用者の様子や表情を写真で伝えており、利用者の日々の生活を家族も共有しやすく、安心感につながる取り組みであると感ずる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で気づきもらい、新たに身体拘束廃止の考え方や権利擁護の実際などに関して勉強できる機会となっている。ミーティングでは以前に比べ職員から多くの意見が出るし、管理職による会議の内容なども職員によく伝わるようになった。今後、管理職と同様に個々の職員においても評価の活用が進むことが期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>参加してもらっている交番所長からは、利用者が行方不明になった際の対応手順についてアドバイスを得ており、事前の情報提供も行っている。災害対策では会議のなかで老人クラブから協力の申し出を得ており、合同での避難訓練が行われている。見守りや防災体制に関して地域から協力を得られるものとして会議が有効に機能しており、今後さらに多様な意見を得ていくために、新たな地域団体にも参加してもらうことを検討している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所に対して家族から明確な要望が出されることは少ない。家族の心情面を支えるものとして、家族間の交流促進に取り組んでおり、その場面から率直な意見が得られることも期待できる。意欲的な取り組みであり今後のさらなる展開が望まれる。</p>
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	<p>住民同士の協力意識が強い地域性のなかで、自治会活動や地域行事、防災体制、地域からの相談対応などを通して、地域住民と良好な関係が築けている。また行政の取り組みも独自性の強いもので、それらへも意欲的に参加している。</p>

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「普通の暮らし」と、そのなかで生じる家族や友人との交流を重視した理念としている。家族との面会を多くすることで関係を修復できたり、友人の訪問は入所後も多い状況となっている。「家にいたら」をモットーにしているだけあって、入所後嫁との関係の修復ができ、自宅に復帰したケースもある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2~3か月に1回のミーティングにおいて事業所としての基本的な姿勢を共有するようにしている。また日々の利用者との関わりや環境作りにおいても、それが本当に「普通の暮らし」を支援するものであるか問い直すようにしている。	○	「普通の暮らし」を支えることと、そのなかでのいくつかの視点が何らかの形で明記されると事業所の姿勢が理解されやすいと思われる。個々の職員においては、「自分が利用者だったら」といった問いかけを続ける真摯な姿勢がうかがえ、事業所全体としての理念共有が今後さらに進むことが期待される。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動(回覧板まわし、ゴミ集積所掃除等)では、職員のみではなく極力利用者も参加するようにしており、地域の受け入れ雰囲気も深まっている。また、老人クラブなどの地域団体も積極的に関わりをもってくれ、様々な地域活動(季節行事、栗ひろい等)のなかで良好な関係が築けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの外部評価に関する作業を通して、一人一人の職員からの意見もより多くえられるようになってきた。また身体拘束に関する「やむを得ない」という状況の考え方や、権利擁護事業の実際的な側面に関してなど、職員全員で学習する機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や自治会区長のほか、老人クラブ役員や交番所長にも参加してもらっており、地域との連携を図る主要な場面となっている。地域からの協力が得られている取組みは、この会議が起点となっているものが多く、有効なものとして機能している。	○	「もし自分がグループホームの所長だったら」というテーマで意見を聞いており、参加者の要望や意見が出やすいよう工夫されている。事業所から伝えていくものとして、会議を利用して地域の認知度の理解度を深めればという思いがある。またこれまでの参加者は男性が多かったことから、今後婦人会にも参加を呼びかけ、女性ならではの意見も得ていきたいとしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の地域ケア会議において市全体の状況把握とともに必要な状況報告を行うほか、市の事業を受託したり、市が主催する介護予防事業に参加するなど、確かな協力関係が築けている。事業所にはいろいろな方が来訪しゆっくりとしていってくれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回は家族に来てもらい利用者の状況を報告するほか、体調不良時などは随時連絡をとっている。また日々の利用者の豊かな表情を写真にとり、家族が来た際に見てもらっている。家族からも様々な説明や相談対応、事業所へ行きやすい雰囲気などにおいて好評が得られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事にあわせて家族に集まってもらっている。事業所への要望といった点では明確な意見は少ないものの、同じ立場として理解しあえる家族間の交流は意義のあるものとなっている。	○	介護者家族の心情は他に話す機会も少なく、そのような部分を共有しあえる集まりの価値は高い。今後は面会時に複数の家族が居合わせる場面でも、家族同士が自然と話せるような雰囲気作りをしていきたいとのことで、訪れる誰もが自由で率直なコミュニケーションをしやすい環境作りの取り組みとして期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とは信頼と安心の表情を得られる程のなじみの関係作りをしている。職員の離職防止のために負担の軽減(例えばシフトへの配慮等)に気をつけている。職員は働きやすい職場と感じており、利用者の優しさや笑顔に癒されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回も研修会に参加できない職員もいるが、事業所内での勉強会はしている。特に緊急時対応には真面目に取り組み、一人ひとりに実技を通して教えている。	○	外部研修参加の機会を増やすことや、内部の勉強会の内容の充実はこれからの取り組みとなる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交流会、交換研修は年1回実施している。サービスの質の向上は長期的な視点としながら、まずは他の事業所との関係の維持を念頭においている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前のホームへの来所を受け入れているが、来所の機会がない入所となるケースもある。できるだけ遊びに来るといふ形での来所をお誘いしている。開所当初は利用者宅への事前訪問も実施していた。入所に関しては本人と家族の意思で決定している。	○	以前実施していた事前訪問も、利用者の馴染みやすさとともに、職員の利用者への理解も深まるものとして再開が望ましい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗たくなどで手伝ってもらったり教えてもらうことが多いほか、100歳の利用者が他の利用者や職員の衣服のほころびや裾上げなどの縫物作業をしてくれている。また以前体育の教師をしていた利用者は朝のラジオ体操の先生でもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「会いたい人がいる」「飲み会をしたい」「温泉にいきたい」などの願望があり、実現できたものもある。利用者の意向が実現には至らない場合でも、日々の生活意欲を促進する手がかりとして重要なものと考えられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	活動的な利用者が多い中で、家族からは「運動をしてほしい」と「安全に過ごしてほしい」という要望があり、そのような要望をベースとしてケアプランを作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度はケアプランを見直すようにしている。見直し時に家族から明確な要望が出されることは少ないが、見直した計画を原案として家族から了承を得るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からは利用者に関すること以外のこと(他の要介護者に関して)でも相談されることがある。また地域住民から介護サービスに関する一般的な質問を受けることも多く、可能な限り幅広い相談対応が心がけられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力病院はもっているが、できる限り入所前からの主治医との関係継続の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	軽度の利用者が多いため、ターミナル支援が必要なケースはまだない。現時点ではターミナル支援において医療機関との十分な関係作りには至っていないが、地域全体の話し合いの中で徐々に協力も得られるようになってきた。	○	今後利用者や家族からの要望に応じられるよう、方針と体制を明確にすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人で部屋で過ごす人は少ないが、部屋に入ってほしくない人、ノックなしでは入れたくない人などには配慮している。さりげないトイレの誘導などにも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家で過ごしたいようにホームでも過ごしてほしいと考えている。家族の知らない生活もホームにはあり、「その人らしさ」に関しては表情や落ち着きなどをみてよとしてしている。利用者は他の利用者も「うちの人」という意識で、昔からの顔なじみと思っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日当日は職員・利用者が一緒になってなごやかに食事をとっていた。また個々の食器は利用者がさげている様子が見受けられた。準備に関しては食材の調理を得意分野として手伝う人が多く、「私にやらせてください」とかって出る人も少なくない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間など利用者の希望に応じての入浴支援を行っている。浴槽、洗い場ともに広く、入浴を好まない利用者を友達が誘って二人での入浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする分野の支援として、手分けしての作業(掃除、料理)、お願いしての作業(縫いもの)など、まだまだ元気な利用者が多いので多方面からの支援をしている。外出を好む利用者が多く、ドライブに行くなど楽しみの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日1時間程度の散歩には、5～6人でほぼ毎日出かけている。公園のベンチで会話をしたり、地域の方々に声をかけしてもらい、一緒に帰宅することもある。教え子が迎えにきて同窓会に出かけたり、投票に出かけたりもしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として鍵はかけていない。もし利用者が一人で外にでてしまった場合に備えて、警察署に協力してもらうようにしており、警察署からはその際に必要となる手順に関してアドバイスをもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策は運営推進会議でよく話し合われており、民生委員、近隣者は訓練時に自主的に手伝いもしてくれる。隣に工事現場の事務所があり、気軽に協力を申し出てくれている。避難場所はすぐ近くの高校であるため、慣れた道を通っての訓練となっている。夜間想定して職員一人での訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿の利用者がいるので遠野病院の栄養士に定期的にアドバイスをもらい、それをもとにして献立をたてている。利用者に合わせての食事の形態にも配慮している。また献立の内容には利用者の希望(コロッケ、かぼちゃ等)も取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間をなるべく広くとり、居室には押し入れは設けていない。日当たりのよい場所に畳があり、こたつがかけられていて、そこで昼寝をしたりゆっくりくつろいでいる利用者もいた。季節感をだすコーナーには花があり、クリスマスにはツリーも飾られる。	○	共用空間は広く、様々なレイアウトが可能となっている。利用者が一人でいられる隠れ場のようなスペースも今後検討していく予定である。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、衣装ケース、小さい食器棚、FAX付き電話機、位牌、遺影、また細かいものではマイ茶碗、はしなどを持参している利用者もいる。読書好き(活字好き)な利用者の居室には本がたくさんあり、読書を楽しんでいる様子がみえた。		